

【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立白石高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・授業及び進路指導等に対する生徒の満足度はおおむね良好であった。 ・働き方改革について、全体的には業務の効率化が図られたが、一部の職員で時間外勤務の上限を超えていた。 ・SAGAコラボレーションスクールの重点校として、地域協働の更なる展開を図る。
------------------	---

2 学校教育目標	校訓「清明・自立・創造」のもと、高い志と主体的に未来を切り開いていく強い意志を持ち、地域に貢献できる、人間性を豊かにして知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健全な人材を育成する。
----------	---

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・SAGAコラボレーション・スクールを起点とした学校魅力化づくりの推進 ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた、授業改善の推進 ・個別最適な学びの推進（伸ばす教育の推進） ・学校行事や校務分掌の連携・改善を通し、キャンパス制機能の活性化を図り、一層の一体感を醸成する。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○生徒の進路希望に応じたきめ細やかな進路指導により、生徒自身が自らのキャリア形成についての理解を深め、進路実現を達成させる。	○キャリア教育アンケートにおいて、「進路について考えることができた」、「ある程度できた」と回答した生徒の割合97%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・各種進路行事を通して、自らの進路に関して考える機会を提供し、生徒自身のキャリア形成に対する理解を深める。 ・活動記録や学期ごとのキャリアパスポート記入を通して、自分の取り組みを振り返る機会を準備し、さらなる活動の進展へつなげる。 ・「総合的な探究の時間」への取り組みを通して、地域との関わりや職業について体験をさせることで主体的に活動し学ぶ態度を育成する。 	A	・アンケートの「学校は、学習や行事等を通して、働くことの意義を考える機会を設けている」では、生徒の96.1%、保護者の85.4%が肯定的回答であった。また、「学校は、学習や行事等を通して、将来の進路(職業)を考える機会を設けている。」では、生徒の95.2%、保護者の90.1%が肯定的回答であった。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の進路指導が行き届いている。 ・生徒の希望する進路が実現するよう引き続きご指導願いたい。 ・進捗状況と実施結果ともに着実な成果を反映しており、今後の継続への信頼と進展への期待が望める。 	進路指導部 各学年
	○主体的に考え行動する力を育成するため、また、学力向上のための授業改善に取り組む	○授業について、「満足している」と回答した生徒の割合90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の効果的な活用方法等、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについて、各教科で研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科研修は、11月の教育・文化週間に合わせて授業参観週間に2週間設け、教科内外を問わずにキャンパス間での研修を実施した。授業の構成、使用教材の工夫、ICTの利活用方法、伝え方等を参考にし、自己の授業改善に活かさせた。 ・授業でICT機器を効果的に活用していると答えた教職員は75.5%であった。 ・アンケートの授業満足度で肯定的な回答は前年度の89.3%を超え、93.1%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかな指導が行き届いており、志望校への合格率が上がった。 ・授業満足度が高くなっていることは、学力向上にもつながると思う。生徒への継続的なご指導をよろしく願いたい。 ・着実な進展が図られている。 ・評価尺度が相対評価から絶対評価へと移行しており、生徒評価の高さは学校の努力のたまものと評価する。 ・職員のICT機器活用は、共通に利用する場面と、利用しない場面(生徒に活用させるアプリの活用)も考慮してよい。 	教育企画部 各教科	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒指導措置数:0件 ○交通ルールの順守や交通マナーの向上への自己評価90%以上 ○人権感覚を身に付けるための啓発活動や研修等へ参加し、人権感覚を身に付けたと回答した職員・生徒を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス担任や教科担当、部活動顧問等から幅広く生徒情報の収集に取り組み、情報共有を図る。 ○人権・同和教育講演会及びホームルーム活動をそれぞれ1回以上実施する。 ○授業や集会等で情報モラルに関する指導を1回以上実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「交通ルールの順守や交通マナーの向上に努めている。」については、生徒は、よく当てはまる72.1%、やや当てはまる23.6%の合計95.7%となった。 ・「人権・同和教育に関する講演会やホームルーム活動に参加し、人権感覚の向上に努めた。」については、生徒は、よく当てはまる52.0%、やや当てはまる36.7%の合計88.7%となった。一方で、「学校は人権・同和教育に取り組み、人権感覚を身に付ける機会を設けている。」については、保護者は、よく当てはまる27.0%、やや当てはまる44.6%の合計71.6%に留まった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーが守れない生徒が増えている。 ・心の教育を十分に行うことにより、思いやりのある心を育てることができると思う。それがいじめ防止に繋がると思う。 ・先生方が自己の視野を広げる活動に取り組み、その活動成果を生徒に伝え、生徒の言動の成長を促す指導をした教職員は80%以上を達成できればよい。 	教務部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校はいじめの予防、発見、対応をしていると思う」と回答した生徒80%	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを年3回実施し、実態調査を行う。 ・QUテストを年2回実施し、実態把握を行う。 ・いじめ対策及びQUテスト分析に関する職員研修を年に1回以上実施する。 ・週に1回、学年・生徒指導・教育相談担当等が情報共有を行い、連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月にいじめの対応について職員研修を行い、いじめに対して、迅速かつ的確に、そして組織的に対応しなければならないという共通理解を図ることができた。 ・学校が生徒や保護者にとって相談しやすい存在となるよう、生徒との信頼関係の構築に一層努め、安心できる居場所や相談しやすい環境を整えることが必要である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の学校生活の中でいじめを早期発見することにより、早期対応ができ、早期解決に繋がる。本校は、生徒との触れ合いを大切に、気軽に相談できる雰囲気を整えていると思う。 ・いじめが解決できるように、生徒や保護者が相談しやすい環境を今後も整えていただきたい。 ・人権・同和教育に関しては、どうしても100%を理想としがちであるが、完璧を期すとともに実態をふまえた漸進的達成をはかることが大切であり、アンケート結果は十分すぎるものである。 	生徒支援部 (生徒指導・教育相談)	

	◎郷土愛を醸成するための教育活動	◎佐賀県や地域について学ぶ活動や講演会を実施し、佐賀県や地域に誇りや愛着を持っている生徒を90%以上にする。	・「さがを誇りに思う教育講演会」や探究活動を通して地域の方々や企業等の代表者から話を聞き、佐賀県や地域の魅力を深める。	A	・アンケートで「佐賀県や地域について誇りや愛着をもつような教育を行っていると思う。」について、職員はよく当てはまる26.4%、やや当てはまる69.8%のあわせて96.2%となった。生徒は、「佐賀県や地域について誇りや愛着を持っている。」のアンケートで、よく当てはまる42.9%、やや当てはまる39.4%のあわせて82.3%となった。	B	・地域の特殊性や将来像を考えながら生徒自身が郷土佐賀を愛することが出来る様にご指導いただきたい。 ・昨年度と比較しても高い達成率であり、校長先生はじめ先生方、そして地域の皆さまのご協力に頭が下がる。根底にある自尊心・自己肯定感が、上記の項目でも伸びつつあることが感じられ、総合的な取り組みが功を奏しているものと考察する。	教務部(佐賀誇り担当)
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康でいるために食事は大切である」と考える生徒を95%以上 ○「健康に良い食事をしている」と回答した生徒80%以上 ○「朝食を必ず摂って登校する」生徒を85%以上にする	・年に2回(5月と11月)に食生活アンケートによる意識調査を行う。 ・月に1回(毎月1日)、食育だよりと保健だよりを発行し、望ましい食習慣と健康との関わり、栄養や食品、旬の食材や行事食について等の情報発信を行う。	A	・11月の食生活アンケートでは「健康でいるために食事は大切またはやや大切である」と考える生徒が2年生で100%であり、全員食生活の大切さを理解している。「健康に良い食事をしている生徒」は90.0%であり、「毎日(土日も含む)の食事について、毎日またはほとんど毎日3回食事をする生徒」が2年生で92.9%であった。毎月1日発行の食育だよりで生徒だけでなく保護者へも情報を発信しており、「子どもは、健康と食事の関わりについて理解し、望ましい食習慣ができています」と考える保護者も88.0%であった。	A	・栄養についての知識が育成されている。 ・食育は生徒の体と心が成長するうえで大切なことであるので、今後ともご指導をお願いしたい。 ・昨年度と比較しても改善されており、継続する力が家庭でも根付いてきていることがわかる。家庭・地域と協働する学びの場である白石高校の成果と高く評価する。	生徒支援部(保健指導)
	○安全に関する資質・能力の育成	○防災について、高い意識を持っていると回答した生徒90%以上	・風水害時の保護者の迎えの手順を文書で作成し周知する。 ・防災避難訓練を消防署立ち合いのもと実施する。	B	・12月のアンケートで、防災について意識を持っているとした生徒は、前年の77%を超え、82.9%であった。 ・地震発生時及び火災発生時の避難訓練を行った際、消防署職員からの講評の中でも、高い評価を受けた。事前の担任からの指導により、生徒防災についての意識が高まったことによると考える。	B	・防犯に関する意識は低い。 ・避難訓練をしっかりと行うことが大事。 ・「自分の命は、自分で守る」ことが出来るようにご指導いただきたい。また、家庭でも話し合っておくべきことかとも思う。 ・平時と非常時は実は連続していることを、近年の自然災害によって教えられることが多い。こうした風土に暮らす者として、自らが堤防の小さな蟻の穴を見つけたら自分で塞ぐ行動をとる態度を継続して養っていただきたい。	生徒支援部(生徒指導)・教育企画(防災担当)
	○心身ともに健康で、文武両道の充実した生活環境をつくる	○本校の「部活動の活動方針」に基づき活動ができたと回答した教員85%以上 ○心身の健康維持・促進に積極的に取り組んでいると回答した生徒を85%以上	・生徒が部活動へ積極的に取り組めるような環境を整える ・放課後の時間の有効活用について、HR等で理解を図る。 ・各学年の部活内における立場を自覚させ、学校の活性化につなげる。	A	・「体育の授業や体育的行事に対し、積極的に取り組んでいる」と回答した生徒は97.1%であり、多くの生徒が心身の健康維持・促進に積極的に取り組んでいる。 ・部活動については、各顧問が綿密な計画のもとに生徒に対し短時間ながらも効果的な活動ができるように引き続き指導していく。	A	・部活動は、限られた時間でよく頑張っている。 ・先生方の熱心な指導で、各部活すばらしい結果が残せている。 ・高校生は、課題が多い中でよく集中して成果を出している。生徒・教職員・家庭の連携に敬服する。	生徒支援部(生徒会)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・事務ポータルシステムの活用と会議の削減を行う。 ・出退勤システムの活用で、個人が時間外在校時間を管理する。 ・定時退勤推進日を設定し、効率的な業務遂行を推進する。	A	・定例の会議の削減と両キャンパス合同で開催する会議をオンラインで実施することで、効率的な校務運営につながり、時間外勤務の削減効果があった。 ・定期的な年休取得の呼びかけの効果もあり、年間取得率が昨年度より向上した。	A	・キャンパス制の中、生徒と先生方はよくやっていると思う。 ・先生方が心身ともに健康で職務に専念できるよう願う。 ・管理職の方には、今後も業務改善等の働き方改革を推進していただきながら職員がやりがいのある職場環境を整えていただきたい。 ・事務ポータルサイト・出退勤システム活用・オンライン会議等の効果を生かすとともに、持ち帰り残業を制限するのではなく、柔軟な勤務制度の導入を行政当局に要請していただきたい。	管理職
	○職場の相談体制を整え、働きやすい職場環境を構築する	○働きやすい職場環境であると回答した教員の割合80%以上を目指す。	・ゼロの日の服務規律指導時に、ハラスメント防止を徹底する。 ・校内のハラスメント相談体制を整え、相談に迅速に対応する。また、第三者相談機関を職員に周知する。 ・職員研修を年間2回以上実施する。	A	・職員の交通安全に対する意識については、県の交通安全週間中の呼び掛けだけでなく、県内の死亡事故発生時の注意喚起も行ったことで、向上につながった。 ・働きやすい職場環境については、アンケートの結果90.6%の職員が肯定的な回答をしており、取り組みの成果が見られた。 ・ハラスメント研修により、全体の意識が向上した。	A	・早く一つのキャンパスにすることを切に希望する。 ・地震や自然災害の多い国で暮らすためには、日常と非日常が非連続であることを意識させ、自らできることを行動に移す習慣づけが大切であり、この数値は素晴らしいと感じる。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体系的な活動の充実と県内外への情報発信 ○学校の魅力化の研究と実践 ○小中高連携の企画	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合80%以上、教職員の割合80%以上 ★県外からの入学者数2人以上 ○地域連携事業に関わったと思う生徒と職員の増加 ○学校が積極的に地域と連携していると思う保護者の増加	・学校魅力化委員会及び学校運営協議会を年3回以上開催する。 ・2年目を迎えたSAGAコラボレーションスクールの取り組みをさらに拡大し、3年間を見通した計画を作成する。 ・総探やフィールドワーク等地域連携事業の質を向上させる。 ・学校の情報発信を促進させる。 ・小中高連携事業を企画する。	B	・アンケートの「自分の学校を中学生に勧めることができる」で肯定的な回答をした割合が、生徒が84.5%と、7月より増加したが、職員が75.4%と、7月の76.6%より減少した。 ・県外からの入学者数は2名であった。 ・総合的な探究の時間や課題研究におけるフィールドワークが昨年度より増加し、地域連携の質が向上した。また、小中高連携した取り組みも進めることができた。	B	・少子化が進む中、とても大事な岐路に差し掛かっている。 ・中学生が白石高校を進学先に選んでくれるように、学校と地域が協力して魅力を発信できるようにお願いしたい。 ・数値の多少の変動に一喜一憂せず、白石高校の両キャンパスの取り組みが地域・小中学校・家庭とつながってこれだけの好況下を得ているところをアピールしていただきたい。	SAGAコラボレーション担当
○校舎制による円滑な学校運営の推進	○キャンパス間の連携・協力体制をより充実させる	○業務の効率化と質の向上を図る。 ○オンラインを活用しながら合同で行う会議・研修・行事を昨年度より増やす。	・校務分掌の整理と業務の分担等行う。 ・合同の学年会や分掌会議をオンラインで行う。 ・特別活動で合同開催が可能なものはすべて合同で行う。	A	・校時を合わせたことで、キャンパスをまたがって、同じ学年団・分掌・教科として取り組めることが増えた。 ・職員会議等は対面とオンラインを併用し、お互いの様子を把握しながら効率よく業務を行うことができた。	A	・キャンパス制はデメリットは多く、メリットは少ないが、その中で職員・生徒達はよく頑張っている。 ・オンラインと対面のいいところを残しつつ改善していただけたらと思う。 ・時間の統一は大きな成果を生んでいると感じる。次は空間の共有であろう。「数は力なり」で今後の両キャンパスの融合を進めてほしい。	管理職 主幹